

静岡県における母子緊急医療システムに関する研究

樋口	忠	(静岡県衛生部保健予防課長)
木村	三生夫	(東海大学医学部教授)
大角	正明	(静岡県医師会理事)
永田	勝男	(静岡市医師会理事)
岩崎	貞三	(")
平野	保	(浜松市医師会理事)
中山	耕作	(聖隷浜松病院院長)
小川	次郎	(名古屋市立大学医学部教授, 聖隷浜松病院顧問)
柴田	隆	(聖隷浜松病院)
判治	康彦	(")
鈴木	尹雄	(静岡県清水保健所長)
久保田	裕之	(静岡県衛生部こども病院準備室)
山本	忠二	(静岡県衛生部医務課)
松本	浩一	(" " 保健予防課)

静岡県における母子緊急医療システムについて (総括報告)

1. 現 状

静岡県における50年の出生は、58,276人で出生率(人口千対)17.6、全国出生率17.1と比べ若干高めである。乳児死亡数は542人で、その率は(出生千対)9.3で全国の10.0よりやや低い。

新生児死亡数は349人で、その率(出生千対)6.0は全国の6.8よりやや低く、周産期死亡数も896人で、その率(出生千対)15.4は全国の16.1よりやや低い。

これに比べ医療施設は、人口10万対施設数が4.3と全国の7.4に比し大巾に低く全国46位である。又人口10万対医師数も93.3人と全国の118.4人より少ない。

このように静岡県は医療施設は少ないがその割に健康状態は全国平均より若干良いという結果がでている。

これは種々考え方もあろうかと思うが、気候温暖で保健上自然環境に恵まれていることと、経済状態もほぼ全国平均であり、加えて京浜、中京地域に隣接しているため、これら地域の優秀な医療施設を利用していることが原因ではなかろうかと

思われる。

しかし、市町村別に乳児、新生児、周産期の死亡率をみるとまだ相当のばらつきがみられ、特にへき地と農村部における数値は高いものがある。

2. 母子緊急医療のあり方に対する一試案

(1) 地域の設定

静岡県は、東西153Km、南北115Km、その面積は、約7,700Km²で全国第13位の広さである。

地域・交通等従来から富士川以東を東部、富士川以西で榛原郡以東を中部、小笠郡と掛川市以西を西部と県内を三分してきており、これを昭和50年の人口でみると、東部は1,104,901人、中部は、1,140,164人、西部は1,063,744人(合計3,308,809人)とほぼ100万人づつとなる。又、出生数は、東部195,663人、中部199,244人、西部187,889で、そのうち低体重児は、東部1,102人、中部1,243人、西部1,119人(合計3,464人)、新生児死亡は、東部121人、中部110人、西部118人と大体平均している。

このことから、東部は沼津市近辺、中部は静岡

市、西部は浜松市にそれぞれ緊急医療センターを設けるのが妥当であろう。

しかし管内の時間的距離から輸送問題を考えると更に数ヶ所のサブセンターの設置も必要となるであろう。

(2) 緊急医療体系

新生児医療を考える場合に、正常新生児を扱う施設と、ある程度の治療（交換輸血等）のできる施設と、高度の治療（NICU等）のできる施設に分けることができる。

この高度の治療ができる施設を県の東・中・西部に3ヶ所設置するのが妥当であろう。この場合小児科に関連する科をもつ総合病院との連携が、迅速にとれる形が望ましい。

現在西部では浜松市の聖隷浜松病院が52年4月からNICUをとり入れる作業中であり、中部の静岡市では県立こども病院が52年4月20日開院を目指して準備中である。東部はまだ具体的に定まっていないが沼津市近辺に開設するのが適当であろう。

又、緊急事態とへき地対策に備えて新生児救急車（NICUの一部を搭載し輸送中に必要な治療を施す）を用意すれば県内新生児の緊急収容態勢は整うものと思われる。

なお、緊急医療とは別に、地域医師会の診療態勢の多様化を考える必要がある。

既に、休・祭日、夜間の時差診療、或は電話による医療相談、或は小児科、眼科、産科等のグループ診療によるもので、これにより患者のスクリーニングが行われ、いわゆる社会的救急の問題は、相当解決されると思われる。

(3) 情報システム

緊急医療を円滑に運営するために必要なことは、種々な情報の収集とその資料の提供である。

このため、緊急医療センターにコンピューターを設け、新生児・未熟児の出生場所、生下時体重、健康状態、或は母親の健康状態等必要事項の記録を行うとともに受入れ側の状態（医療機関毎の医師とベット数）も併せ把握し、適切に対処することが必要であると思われる。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

1,現状

静岡県における 50 年の出生は,58,276 人で出生率(人口千対)17.6,全国出生率 17.1 と比べ若干高めである。乳児死亡数は 542 人で,その率は(出生千対)9.3 で全国の 10.0 よりやゝ低い。

新生児死亡数は 349 人で,その率(出生千対)6.0 は全国の 6.8 よりやゝ低く,周産期死亡数も 896 人で,その率(出生千対)15.4 は全国の 16.1 よりやゝ低い。